

《ミャンマー》少数民族組織との停戦・和平交渉 政府の基本方針・経過と政府側代表の略歴

ミャンマーでは、4月初めの連邦議会補選で野党「国民民主連盟(NLD)」が圧勝し、民主化運動指導者アウン・サン・スー・チーNLD党首の国政参加が実現した。今後は、テイン・セイン政権がこうした政治の民主化と並行して推進する、政府と少数民族武装組織との停戦・和平交渉の進展にも国際社会の期待がかかる。同政権による一連の和平交渉での基本方針と経過および政府側代表の略歴など少数民族和解問題を理解するための基本的な情報をまとめた。

「3段階」の停戦・和平合意

2011年3月末に発足したテイン・セイン現政権は同8月、国内のすべての少数民族武装組織に対して、連邦政府が新たに打ち出す「和平構想」に基づく停戦・和平交渉に応じるように要請するテイン・セイン大統領名の声明を発出した。

この「和平構想」は、(和平交渉の政府代表であるミン・アウン鉄道相の説明によると)次の3段階を経て完成する。

〈第1段階〉当該の少数民族組織が活動している各州・地域政府との停戦合意：相互の戦闘停止と連絡事務所の設置、(政府・少数民族組織)相互の支配地域に対する非武装要員の自由往来などが骨子。

〈第2段階〉連邦政府との和平合意：信頼構築と政治的対話の継続・深化、および少数民族支配地域での教育、保健、運輸、通信各分野の開発事業に対する政府の支援・協力が骨子。

〈第3段階〉首都ネピドーの連邦議会(国会)ですべての少数民族組織と政党が参加しての「恒久的な和平協定」の調印。

2つの「政府和平交渉団」

「和平構想」を担当する連邦政府側交渉団には、政府与党「連邦団結発展党(USDP)」第一書記のアウン・タウン元第一工業相(現下院議員)を代表とする、連邦議会の設置による交渉団(別名「和平構築委員会」：以下、「交渉団A」と)、大統領府が設置したアウン・ミン鉄道相を代表とする「政府和平交渉団」(以下、「交渉団B」と)の2つのチャンネルがある。

その上、国営英字紙「ミャンマーの新しい灯(New Light of Myanmar)」の報道では、アウン・タウン、アウン・ミン両氏とも「連邦レベル和平交渉団団長(Leader [Head] of the Union Level Peacemaking Group)」との役職名で表記されるなど、両政府交渉団の役割や権限などは不明瞭な部分がある。少数民族組織側からもこうした2つの機関の存在は各組織間の連携や政府との交渉に混乱を来すとの批判が出ている。

ただ、交渉対象の少数民族組織をみると、アウン・タウン氏が主に北部・東北部国境地帯を中心とする(前軍政時代に和平合意に調印したことがある)旧「親軍政系組織」、アウン・ミン氏が主に東部・南東部国境地帯の(前軍政時代にも一貫して反政府武装闘争を展開してきた)旧「反軍政系組織」を担当するなど、両氏の間には地域および過去の各組織との人的繋がりなどによる大まかな役割分担があることがうかがえる。

11組織と停戦合意

テイン・セイン政権が2011年8月に少数民族組織との「和平構想」を打ち出して以来、本稿執筆時点(4月16日)までに州・地域政府レベルでの停戦合意(「第1段階」)を経て連邦政府レベルでの和平合意(「第2段階」)に調印した少数民族武装組織は次の6組織である。

①「ワ州連合軍(UWSA)」②「民族民主同盟軍(NDA)」③「カロトウボー・グループ」④「シャン州軍・南部(SSA-S)」⑤「シャン州軍・北部(SSA-N)」⑥「新モン州党(MNSP)」

また、「第1段階」の停戦合意に調印し、現在は「第2段階」の合意調印に向けて交渉中の組織には次の5つがある。

①「チン民族戦線(CNF)」②「カレン民族同盟(KNU)」③「カレン民族同盟/カレン民族解放軍和平委員会(KNU/KNLA-PC)」④「カレン民族進歩党(KNPP)」⑤アラカン解放党(ALP)

一方、まだ「第1段階」の調印にも至っていないが、現在停戦に向けて政府交渉団との交渉に入っているのは、少数民族武装組織では

UWSAに次ぐ武装勢力(推定1万人)を有する「カチン独立機構(KIO)」と、シャン州内で活動する小規模な組織である「パオ民族解放機構(PNLO)」の2組織だけになっている。

因みに、テイン・セイン大統領が連邦議会に送付した1月26日付け文書は、連邦政府が公式な和平交渉の対象とみなす少数民族武装組織は「計11」であると指摘している。この「11組織」に含まれるのはどの組織かについては、海外報道で現在まで明らかな混乱がみられる。

記者(勝田)の取材に対して、ミャンマー外務省関係者が特定した「11組織」は、上述してきた(KIO、PNLOを含む)13組織中で「カロトウボー・グループ」とKNU/KNLA-PCを除く11の組織である。除外された2組織はKNU主流派に造反し枝分かれした旧「親軍政系組織」であるが、テイン・セイン現政権は前軍事政権と同じく、カレン族の代表として交渉すべき正式な組織はKNUのみであるとの立場をとっていることがこの事実からもわかる。

停戦・和平交渉の経過(時系列)

2011年

[3月30日] テイン・セイン政権発足

[8月18日] 政府が停戦交渉を呼びかけ

テイン・セイン政権の連邦政府が反政府少数民族各組織に対し、各州・地域の政府当局との停戦交渉に応じるように要請する声明(「和平構想」)を発出。

[10月1日] UWSA：「第1段階」に合意

〈シャン州東部・チェントン〉旧「親軍政系組織」である「ワ州連合軍(UWSA)」(ワ族第二特別区)の代表団が「交渉団A」の調停でシャン州政府代表団との停戦合意(「第1段階」)に調印。

[10月9日] NDA：「第1段階」に合意

〈シャン州東部・チェントン〉旧「親軍政系組織」である「民族民主同盟軍(NDA)」(通称「モンラ軍」(モンラ第四特別区)の代表団が「交渉団A」の調停でシャン州政府代表団との停戦合意(「第1段階」)に調印。

[11月3日] DKBA分派：「第1段階」に合意

〈カレン州(州都)パアン〉旧「親軍政系組織」である「民主カレン仏教徒軍(DKBA)」(国軍司令部指揮下の「国境警備隊[BGF]」に再編済み)から離脱し反政府姿勢に転じていた元DKBA第5旅団、通称「カロトウボー(Kaloh Htoo Baw)グループ」の代表団がカレン州政府代表団との停戦合意(「第1段階」)に調印。

[11月29日] KIOとの和平交渉は進展なし

〈中国・雲南省瑞麗〉旧「親軍政系組織」である「カチン独立機構(KIO)」(軍事組織＝「カチン独立軍(KIA)」)と「交渉団B」が和平交渉を行ったが、双方がお互いの主張を述べただけで停戦合意など実質的な和平に向けた進展はなかった。

[12月2日] SSA-S：「第1段階」に合意

〈シャン州(州都)タウンジー〉旧「反軍政系組織」である「シャン州軍・南部(SSA-S)」(政治母体＝「シャン州復興評議会(RCSS)」)の代表団がシャン州政府代表団と停戦合意(「第1段階」)に調印。調印式には「交渉団B」のアウン・ミン団長(鉄道相)ら連邦政府高官が同席した。

[12月10日] KIAに対する「単独停戦」を命令

テイン・セイン大統領がカチン州内で作戦を展開するすべての国軍部隊に対してKIA部隊に対する軍事攻撃を停止するように命令(しかし、この「単独停戦」命令にもかかわらず両部隊間の戦闘は現在まで継続している)。

[12月11日] D K B A分派：「第2段階」に合意
 〈カレン州(州都)パアン〉「カロトゥーポー・グループ」の代表団が“代表団A”と政治・経済分野などに関する6項目の和平合意文書(「第2段階」)に調印。

[12月26日] U W S A：「第2段階」に合意
 〈シャン州「ワ族第二特別区」パンサン(UWSA本部)〉パンサンを訪問した“交渉団A”がUWSAの和平代表団と連邦レベルでの和平交渉を行った結果、双方は6項目に関する合意文書(「第2段階」)に調印。

[12月27日] N D A A：「第2段階」に合意
 〈シャン州東部「第四特別区」モンラ〉モンラを訪問した“交渉団A”がNDAA(モンラ軍)の和平代表団と連邦レベルでの和平交渉を行った結果、双方は6項目に関する合意文書(「第2段階」)に調印。

2012年

[1月6日] C N F：「第1段階」に合意
 〈チン州(州都)ハーカー〉旧「反軍政系組織」である「チン民族戦線(CNF)」の代表団が“交渉団B”が主導する和平交渉で停戦合意(「第1段階」)に調印。合意は、2011年11月19日にタイ北部・メーサイで行われた予備交渉を受けたもの。

[1月12日] K N U：「歴史的」停戦に合意
 〈カレン州(州都)パアン〉前軍事政権時代からミャンマー政府が公式には「唯一の反政府組織」と位置付けてきた「カレン民族同盟(KNU)」の代表団が“交渉団B”が主導する和平交渉で、国軍と「カレン民族解放軍(KNLA)」(KNUの軍事組織)との相互停戦を含む5項目からなる州レベルでの合意文書(第1段階)に調印。政府とKNUによる文書での停戦合意はKNUの63年に及ぶ反政府武装闘争の歴史において初めてで、政府側はこの調印を「歴史的な勝利」と高く評価した。

[1月16日] S S A - S：「第2段階」に合意
 〈シャン州(州都)タウンジー〉SSA-S代表団が“交渉団B”との和平交渉で政治的な課題に関する11項目を盛り込んだ連邦レベル(「第2段階」)の和平合意文書に調印。

[1月19日] K I Oとの交渉は再び決裂
 〈中国・雲南省瑞麗〉“交渉団A”とKIO代表団との和平交渉が再開し、丸2日間に亘って交渉が行われた。両代表団は同日、「軍事行動の拡大を相互に抑制し、政治的な話し合いの継続を通じて恒久的な和平を達成するように努力する」との類似の声明を個別に出しただけで、今回も停戦合意(第1段階)に至ることはできなかった。ただ、両代表団は、戦闘地域での誤解や相互不信を解消するために連絡・調整ルートを確立することで合意した。

[1月26日] 大統領が「11組織」との交渉経過を説明
 テイン・セイン大統領は連邦議会に送付した同日付け文書の中で、「これまでに6つの少数民族武装組織と和平で原則合意した。残る5組織とも交渉を続けている」とする和平交渉の進捗状況に関する政府の見解を明らかにした。

[1月28日] S S A - N：停戦・和平に合意
 〈シャン州(州都)タウンジー〉旧「親軍政系組織」である「シャン州軍・北部(SSA-N)」(政治組織は「シャン州進歩党〔SSPP〕」)が“交渉団A”との和平交渉で同州レベルでの停戦合意(「第1段階」)と連邦レベルでの和平合意(「第2段階」)の2つの文書に調印した。

[2月1日] N M S P：「第1段階」に合意
 〈モン州(州都)モーラミヤイン〉旧「反軍政系組織」である「新モン州党(NMSP)」の代表団が“交渉団B”が主導する和平交渉で州レベルでの停戦を含む5項目で合意(「第1段階」)。

[2月6日] K N P PとP N L O：和平交渉開始
 〈タイ北部・チェンマイ〉“交渉団B”が2月5～6日、旧「反軍政系組織」である「カレン民族進歩党(KNPP)」および「パオ民族解放機構(PNLO)」の各代表団と停戦を主な議題とする和平交渉を行った。“交渉団B”は、ミャンマー・タイ国境地帯を拠点とする「国民民主連盟・解放区(NLD-Liberated Area)」など複数の民主化組織(少数民族組織)の代表らとも国民和解や政治の民主化について話し合った。

[2月7日] K N U/K N L A - P C：停戦に合意
 〈首都ネピドー〉(2007年2月に軍事政権に「帰順」した元KNLA第7旅団将兵を中心とする旧「親軍政系組織」)「カレン民族同盟/カレン民族解放軍と平和委員会(KNU/KNLA-PC)」が“交渉団A”の主導によるカレン州レベルでの停戦合意に調印(「第1段階」)。

[2月26日] N M S P：「第2段階」に合意
 〈モン州(州都)モーラミヤイン〉NMSP代表団が“交渉団B”との間で連邦レベルの和平合意(4項目)に調印(「第2段階」)。

[3月8日] K N P P：「第1段階」に合意
 〈カヤー州(州都)ロイコー〉旧「反軍政系組織」である「カレン民族進歩党(KNPP)」の代表団が“交渉団B”が主導したカヤー州レベルでの停戦合意(11項目)に調印(「第1段階」)。

[3月11日] K I Oとの交渉：3度目も決裂
 〈中国・雲南省瑞麗〉“交渉団A”とKIO代表団は4日間に及ぶ交渉をおこなった。共同声明によると、交渉には一定の進展があり、双方は今後も政治的手段を通じて停戦に向けた話し合いを続けることで合意した。

[4月5日] A L P：「第1段階」に合意
 〈ラカイン州(州都)シットウエ)〉旧「反軍政系組織」である「アラカン解放党(ALP)」がラカイン州政府との間で停戦合意(「第1段階」)に調印。

[4月7日] K N U：テイン・セイン大統領と会談
 〈首都ネピドー〉ジッポラ・セイン(Naw Zipporah Sein)書記長率いるKNU代表団がテイン・セイン大統領と非公式に会談し、大統領に対して「ミャンマー全土での(国軍とすべての少数民族組織との)一斉停戦」と「KNUの合法化認定」などを要求した。大統領サイドが設定した会談とされ、政府が多数の少数民族組織の中でKNUとの和平交渉を特別に重要視していることがわかる。KNU代表団は前日(6日)にはヤンゴンで“交渉団B”との初の連邦レベルでの和平交渉を行い、1月に調印した停戦合意の補完措置やカレン族難民問題など13項目について協議した。また、KNU代表団は同日、1日の連邦議会補選で当選したばかりのアウン・サン・スー・チャーNLD党首と会談し、国民和解に向けて連携・協力することで合意した。

《人物データ・ファイル》

■連邦レベル和平交渉団代表

Leader of the Union Level Peacemaking Group

アウン・ミン U Aung Min

大統領府が設置した和平交渉団の団長。ミャンマー各地はもとより中国雲南省やタイ北部にまで出向いて少数民族組織との停戦・和平交渉に尽力。海外メディアでは「国境なき大臣(Minister without Border)」との異名も。特に、KNUなど旧「反軍政系組織」のほぼすべてとの停戦合意をまとめた交渉手腕は高く評価されている。旧軍政時代の2003年から閣僚(鉄道輸送相)を務めており、テイン・セイン大統領ら首脳への信頼の厚さがみとれる。

▼データ：【公職】鉄道輸送相【年齢】62歳(1949年11月20日生まれ)【生地】バゴ管区バゴ【人種】ビルマ族【政党】連邦団結発展党(USDP)【学歴】国軍士官学校(DSA)卒(理学士)【軍歴】退役少将【経歴】国防省情報総局/第239ミャンマー連隊連隊長/[1998年]第66軽歩兵師団(LID)師団長/[2001]南部軍管区司令官/[03年]鉄道輸送相/[10年4月]国軍を退役、[11月総選挙]国民代表院(下院)議員に当選(タウンゲー選挙区：のちに閣僚就任で資格喪失/[12年3月30日](テイン・セイン政権)鉄道相に再任(一現在)【趣味】ゴルフ【家族】ワイ・ワイ・ター(Dr Daw Wai Wai Tha)夫人【既出データ】AMR(11/05/01)

■連邦レベル和平交渉団代表

Leader of the Union Level Peacemaking Group

アウン・タウン U Aung Thuang

連邦議会が設置した和平交渉団(委員会)の団長。テイン・セイン政権与党「連邦団結発展党(USDP)」の第一書記を務める実力者。現在は、主要な少数民族組織ではほぼ唯一停戦に応じていない「カチン独立機構(KIO)」との和平交渉に取り組んでいるが難航している。

▼データ：【公職】国民代表院(下院)議員【年齢】63歳(1948年8月11日生まれ)【人種】ビルマ族【政党】連邦団結発展党(USDP)：第一書記【学歴】ヤンゴン大学卒/国軍幹部候補生学校(OTS)卒【軍歴】退役大佐【経歴】(同学校卒業後)少尉に任官、歩兵連隊等に勤務/旧・北西軍管区(現・中部軍管区)作戦部長(大佐)等を歴任/[1993年]国軍を退役、副貿易相/[96年]畜産・漁業相/[97年]第一工業相/[10年11月総選挙]国民代表院(下院)議員に当選(タウンタ選挙区)【既出データ】(10/05/15)(02/08/01)

(アジア・リンケージ 勝田 悟)